

法人名	大阪府道路公社
-----	---------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R4~R6)		R4目標設定の考え方 (数値の指標) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
① 安全・安心で快適な道路サービスの提供	管理上の瑕疵に起因する事故件数		件	10	0	0	0	0	10	—	—	穴ぼこ、路上障害物、雪氷、安全施設不備等の管理瑕疵に起因する事故発生防止のため、365日24時間の交通管理パトロールに加え、公社職員による施設・設備の点検の実施により、事故発生ゼロを目標とする。	お客様の通行の安全性向上を第一に考え、パトロール実施などにより、絶えず管理瑕疵に起因する事故の発生防止を図る。道路構造物を常に良好な状態に保全し、構造物等施設点検の充実を図る。
② 利用者の利便性増進	鳥飼仁和寺大橋有料道路へのネットワーク型ETCの整備		導入	5	—	導入	導入	—	—	—	—	—	—
	鳥飼仁和寺大橋有料道路のネットワーク型ETC利用率	☆	%	—	—	—	(6.3)	10.0	10	—	—	利用者からの感染を不安視する声やETC導入の要望が寄せられ、ネットワーク型ETCを導入したことから、利用者を増加させることで、より一層の整備効果を上げるもの。令和4年度における利用促進効果を計るため、令和5年3月の1か月間における利用率を目標値とする。	ネットワーク型ETC導入の周知を図るため、料金所や物流事業者等への広報活動を実施すると共に、現金利用者に対してのアンケートを実施し、ネットワーク型ETCへの転換を促進する検討を行う。
	日平均交通量		台	10	18,993	20,211	[20,303]	—	—	—	—	—	—
	利用促進策等の効果的な情報発信		項目	5	—	8	×6	7	5	—	—	コロナ禍を踏まえた各路線の知名度や利便性の周知度の向上を図る利用促進策や路線情報の取り組み	路線の知名度や利便性の周知が効果的に図られるよう利用促進策や路線情報を市役所、観光協会、Youtubeなどを活用して適切な時期に発信する。
	SNS広報の閲覧数	☆	千人	—	(60)	—	(65)	70	5	—	—	Twitterを活用して各路線の認知度を向上させるため、閲覧数(インプレッション数)をR3実績を超える人数に設定	路線の認知度向上をが図られるよう、Twitterを活用して魅力的な情報発信を行い、閲覧数を増やす。

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

利用台数及び安定的な事業収入の確保	有料道路料金収入		百万円	10	1,736	1,886	[1,964]	—	—	—	—	—	—
維持管理方針に基づく計画的な維持管理	維持管理費		百万円	10	903	1,026	[1,010]	—	—	—	—	—	—
④ 法人経営の効率化、組織体制の見直し	コスト縮減額		百万円	10	24	17	[17]	21	10	21	78	これまで実施した維持管理方法の工夫、管理水準の見直し、電力調達方式の見直し等によるコスト縮減の取り組みによる縮減見込額を計上(法人職員の人件費にかかるコスト縮減額を除く)	これまで実施した維持管理方法の工夫、管理水準の見直し、電力調達方式の見直し等によるコスト縮減の実施を継続。
	職員定数	☆	人	—	(25)	—	(25)	22	15	—	20	R3年度職員定数である25人に対し、中期経営計画期間内において5人の職員定数削減を設定 年度を通じて職員定数が目標値を超えない場合に達成とする	組織体制を部課制からグループ制に見直すことで、事務の効率化を図り、更なる職員定数削減に取り組むとともに、人件費の縮減を図る。

【凡例】  
 ・☆はR4年度からの新規項目  
 ・×は目標値未達成  
 ・↓は前年度実績比マイナスの目標値  
 ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値  
 ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値